

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

病気を治せるのは患者さんだけ

これから先、どれほど医療が発展しても、医療そのものが病気を治すことは不可能です。例えば風邪を引いて、お医者さんから処方されたお薬を飲んだとしても、それによって風邪が治ったとしても、風邪を治したのは患者さん自身の力です。また急性虫垂炎になったとして、それでお医者さんからの投薬や手術を受けたとしても、やはり病気を治すに至ったのは患者さんの力です。医療は患者さんの病気を治す上で極めて大切ですが、それは患者さんが病気を治すための手助けに過ぎません。いくら投薬や手術を施しても、患者さんが病気を治す力を回復しない限り、病気は治らないのです。病気を治す力、または病気を防ぐ力を「自己防御力」といいます。重症の病気になるのは、自己防御力を回復させることが重要になります。患者さんの自己防御力が回復しないならば、どんなに素晴らしい先進医療を施しても治らないのです。

患者さんの勘違い

患者さん自身が、勘違いしている場合もあります。あるとき癌と診断された患者さんが、3つの病院で同時に治療を受けておられました。そのこと自体は、患者さんの希望だったと思いますので、何ら問題はありません。しかし患者さんの姿勢が、3つの病院のスタッフが協力しあい「私の病気治してね。」というあり様でした。さすがに「ああ、勘違いされている」と思いました。時に医療スタッフも患者さんの話を伺っているうちに、とても感極まり「俺が何とかしてやる!」という気持ちになります。でも病気を治せるのは患者さんの自己防御力だけです。患者さんは自分の自己防御力を高めるために最大限の努力をしなければなりません。そしてそのためにも、患者さんが「何がなんでも、病気を克服してみせる!」という力強い闘志を持つ必要があります。

病院は病気を治す

手助けに過ぎない

殆どの人は、病院の位置づけを「病気を治す所」と決め込んでいま



す。確かに病院は病気を治すために必要な所ですが、正確には「病気を治す手助けをする所」です。今まで健康だった方が病気になると、とっても不安になるものです。まして重篤な病気ともなれば、すっかり気弱になり、すべての治療を病院にお任せしたいと思うものです。しかし、病気を治せるのは患者さん本人だけです。今まで健康であったのは、病気を防ぐ力、すなわち自己防御力が丈夫であったからです。そして病気になったのは、自己防御力が弱くなったからです。ですから

ら再び自己防御力を回復しない限り、病気を完治させることはできません。当然のことですが、これは自分の努力で回復して下さい。どんなに素晴らしい医療技術をもつ、そして優秀な医療スタッフがそろっている病院でも、患者さんに代わって自己防御力を高めることは不可能です。患者さんは不安感に押しつぶされそうになりながらも、必死になって自分で努力するしかありません。

病気と闘う覚悟を決める

病気の治療(ちゆ)への道は、覚悟を決めたときから始まります。例えば癌だと診断されて抗がん剤を受けることになっても、「抗がん剤がきつと私の癌を治してくれるわ!」ではなく、「絶対に癌を治す!」という覚悟で治療を受けるべきです。また患者さんの中には免疫治療を受けられる方がいます。免疫力を増強すれば、より癌をやっつけることができます。その場合も「免疫治療がきつと私の癌を治してくれるわ!」ではなく、「絶対に癌を治す!」という覚悟が癌を消すことに繋がります。何故なら、絶対に病気を治すという気持ちは、自己防御力を高める第一歩になるからです。それなくして、自己防御力の回復は達成できません。

治癒(ちゆ)するための評価法

病気を予防するために、また病気を治すためには自己防御力の回復が不可欠です。しかし最大の問題は、そのこと自体を知っていないことです。絶対に病気を治すといっても、具体的に何をどうすればいいのか分からないのです。医療雑誌やインターネットで調べても、情報があり過ぎて頭が混乱するばかりです。手術や薬、放射線治療に始まって、免疫治療、ビタミン治療、温熱治療、温泉治療、転地治療、食事治療や断食、湿布治療、運動、体操、呼吸治療、気功、ヨガ、アロマセラピー、音楽療法、笑う治療など、あらゆる病気の治療方法が紹介されています。もちろん、そのどれもが素晴らしい治療法です。しかし肝心なことが抜けています。一体何がどうなったら治るの？その評価法が分からないために、次から次へと色々な治療を渡り歩いていきます。効いているという確信がもてないのです。必ず自己防御力診断を受けなければなりません。

私の生涯の仕事

私の生涯の仕事は、病気の治癒(ちゆ)には自己防御力の回復が必須であること、そして自分の自己防御力の評価を必ず確認するために「自己

防御力診断」を受けること、さらに自己防御力の回復をスピーディーに行うために還元電子治療の必要性をお話することです。このまま医療の世界が、病気を治せるのは患者さん自身の自己防御力であることを忘れてしまうなら、世の中は病気の渦に巻き込まれてしまいます。そしてやがて世の中は崩壊してしまいます。心身ともに健康な人の集まりが、きっとより良い社会を築いてくれるはずです。

【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院。現在堀口医院理事長兼院長を務める。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案され、世界各国で特許を取得。またその細胞のコンディションを取り戻すための「還元電子治療」を独自に開発。二〇一一年五月、世界中医療学会連合会、自然療法研究専門委員会、副会長に就任。現在は、病気の根を調べる「自己防御力診断」と病気の根を治療する「還元電子治療」を駆使し、全国で一万六千人以上の患者の治療に取り組む傍ら、「根元の医療」と呼ばれる新しい医療を推進し、全国で講演活動を行っている。

